



港区の 都市景観資源紹介

港区の 都市景観資源紹介

大阪市では、平成 15 年度に港区の都市景観資源（旧・指定景観形成物）1 件を登録するとともに、平成 21 年度に港区の都市景観資源の発掘のため、「わがまち自慢の景観」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成 23 年 7 月 1 日に 4 件を都市景観資源に登録しました。

おおし A 港大橋



- 所在地 大阪市港区海岸通 3 丁目一住之江区南港東 9 丁目 間
- 登録年月日 平成 15 年 4 月 11 日
- 概要 昭和 49 年（1974 年）に完成した最大支間長 510m のダブルデッキ形式のゲルバートラス橋で、阪神高速道路に架けられた橋の中で最も長い支間長を持ち、トラス橋としては世界第 3 位の規模を誇っている。また、橋下を 4 万トン級の大型コンテナ船が航行できるように、海面から桁下までは 50m 以上の空間が確保されている。そのスケールや色彩、重量感から、大阪港のランドマークになっている。

あじがわすいもん 1. 安治川水門



- 所在地 港区弁天 6 丁目
- 登録年月日 平成 23 年 7 月 1 日
- 概要 大阪ではシェーン台風や第 2 室戸台風など高潮による大きな被害を受けてきたことから、その対策として、昭和 45 年（1970 年）に建設された。耐震、耐風の安全性や、船舶航行時の必要上部空間を確保できることからアーチ型水門（幅 57m）が採用された。

ちっこうあか そうこ ジーライオン ミュージアム
2. 築港赤レンガ倉庫 (GLION MUSEUM)



- 所在地 港区海岸通 2 丁目 6 番
- 登録年月日 平成 23 年 7 月 1 日
- 概要 築港赤レンガ倉庫は、大正 12 年 (1923 年) に、住友倉庫により岸壁の整備にあわせ、船の積み荷を保管する港湾倉庫として建設されたものであり、港区では空襲にも焼け残った数少ない建造物である。平成 19 年 (2007 年) に大阪市に移管された後、民間事業者の募集を経て平成 27 年 (2015 年) 6 月から当時の佇まいを残しながらクラシックカーミュージアムや飲食店として活用されている。

さくらとお
3. 桜通り



- 所在地 港区磯路 3 丁目～弁天 3 丁目
- 登録年月日 平成 23 年 7 月 1 日
- 概要 桜通りには、南北 800m に渡ってソメイヨシノとサトザクラが植えられている。桜並木は、昭和 40 年代に地域住民により植えられ、管理されているもので、桜の開花時期には地域イベントが開催され人々でにぎわっている。

てんまや
4. 天満屋ビル



- 所在地 港区海岸通 1 丁目 5 番 28 号
- 登録年月日 平成 23 年 7 月 1 日
- 概要 昭和 10 年 (1935 年) 建築。当初は、天満屋回漕店の事務所兼住宅だった。茶褐色のスクラッチタイル、角に取られた大きなアール、丸窓を置いたモダンなデザインが印象的な建築物。現在も飲食店等に利用されている。
※スクラッチタイル…表面を櫛引きして平行の溝をつくり、焼成した粘土タイル
※回漕店…海運業者と荷送り人との間の取り次ぎをする店

港区の都市景観資源（分布図）



平成 15 年度登録の都市景観資源
（旧・指定景観形成物）

A 港大橋

平成 23 年 7 月 1 日登録の都市景観資源

- 1** 安治川水門
- 2** 築港赤レンガ倉庫（GLION MUSEUM）
- 3** 桜通り
- 4** 天満屋ビル